

## 大原社会問題研究所五十年史

## Ⅴ 戦後

## 麻布分室の設置

資料センター設立準備作業も、原資料の分類整理、機関紙誌の基本カードおよび目録作成、欠号補充等が進んだ。また文献集収に関し、この秋、元社会党委員長鈴木茂三郎氏の所蔵する「社会文庫」の受入れが問題となった。鈴木氏は多年にわたり私財を投じて集収した社会運動、社会主義関係の文献コレクションを一括、適当な機関に寄附したいと表明、これに応じて研究所は鈴木徹三法大教授を通じてその受入れを鈴木氏に申入れた。一二月二日には、宇佐美所長と大島理事が衆院会館に鈴木茂三郎氏を訪ね、正式に「社会文庫」の寄贈方を懇請した。しかしこの前後、近代文学館においても文庫の受入れについて鈴木氏と交渉をつづけていたのであり、結局、研究所への受入れは実現しなかった。一二月七日、鈴木氏は鈴木徹三教授を伴って研究所をおとずれ、保管設備もとのい、人手もある近代文学館への寄贈に決定せざるをえなかったむね表明された。

「社会文庫」受入れに失敗した大きな理由が、研究所事務室、閲覧室および書庫の手狭なことにあったことは事実で、この頃は各室とも図書資料が充満して身動きのとれぬ状態にあった。研究所は一月中旬、法大当局と折衝し、東京・麻布三ノ橋にある法政大学麻布校舎の一室を借用することにした。こうして翌一九六七年より文献保管と資料整理のため「大原社会問題研究所麻布分室」を設置した。

六六年度の出版物は、年鑑第三七集、『資料室報』のほか、『日本労働組合評議会資料』（その一、二村一夫兼任研究員編集解説）、『準戦時体制下の農民組合』I（大原勇三嘱託編集解説）および『中小企業の賃金と労働市場』等であった。

人事異動としては、法大財務理事となった菰渚鎮雄教授が理事、評議員に選任され、また監事金原藤一氏に代って田村太郎氏が就任し、大原総一郎氏は再任された。

所員にも二名の入所があった。小林謙一名名古屋市大助教授と二村一夫東邦大学助教授が兼任研究員として四月より就任した。

研究所の元研究嘱託で委員でもあった三宅晴輝氏がこの年九月一日死去された。また研究所創立当時の研究員であり、のち倉敷労働科学研究所に転出された暉峻義等氏が一二月七日死去された。

法政大学大原社会問題研究所五十年史  
発行 1970年11月  
編・発行法政大学大原社会問題研究所

